

自動認識システム大賞「優秀賞」

テーマ

自動認識技術による位置空間情報の取得・活用 とアパレル生産性向上モデル

技術分野：RFID

申請会社：住金物産株式会社

共同申請会社：東芝テック株式会社

システムの概要

アパレル商品の販売では、ファッショントレンド、気候、消費者心理など不確実な変動要因が多々あり、需要予測が難しいのも現状である。現時点では定性的感覚での需要予測や計画を行なっているためにムリ、ムダ、ムラといった生産性の低下を引き起こしてしまっている。これらを回避するためにはサプライチェーンの高度化に加え、需要予測や計画精度を高める必要があった。

サプライチェーンの高度化、需要予測の精度向上のためには、これまでのPOS上の売上データからの情報のみならず、店舗内での顧客の購買意欲が記される商品動向の可視化が極めて重要である。店舗内に陳列されている商品には、顧客から手に取られたり、試着室に持ち込まれたりして、最終的に購入される。中には、手に取られても購入に至らなかったり、全く手にも触れられない商品も存在したりする。つまり店舗内商品の動向を把握することができれば、顧客の購買意欲をはっきりと定量的に把握することができるようになる。

この商品のサプライチェーンのみならず店舗内も含めた商品の位置空間情報をRFIDを活用することで取得分析し、戦略的な各種計画の高度化を実現することで、アパレル生産性の向上モデルを実現した。

システムの特徴

本モデルではRFIDの活用により、サプライチェーンの高度化、店舗運営の高度化、企画・計画精度の向上を実現し、それによってアパレル業務全体の生産性を向上し、利益確保が可能になるモデルを構築した。

① RFIDによるアパレルサプライチェーンの高度化

中国の生産現場から日本国内のアパレルショップまでの日中間物流の可視化及び効率化を実現しアパレルサプライチェーンモデルの高度化を実現。

② RFIDによる店舗運営の高度化

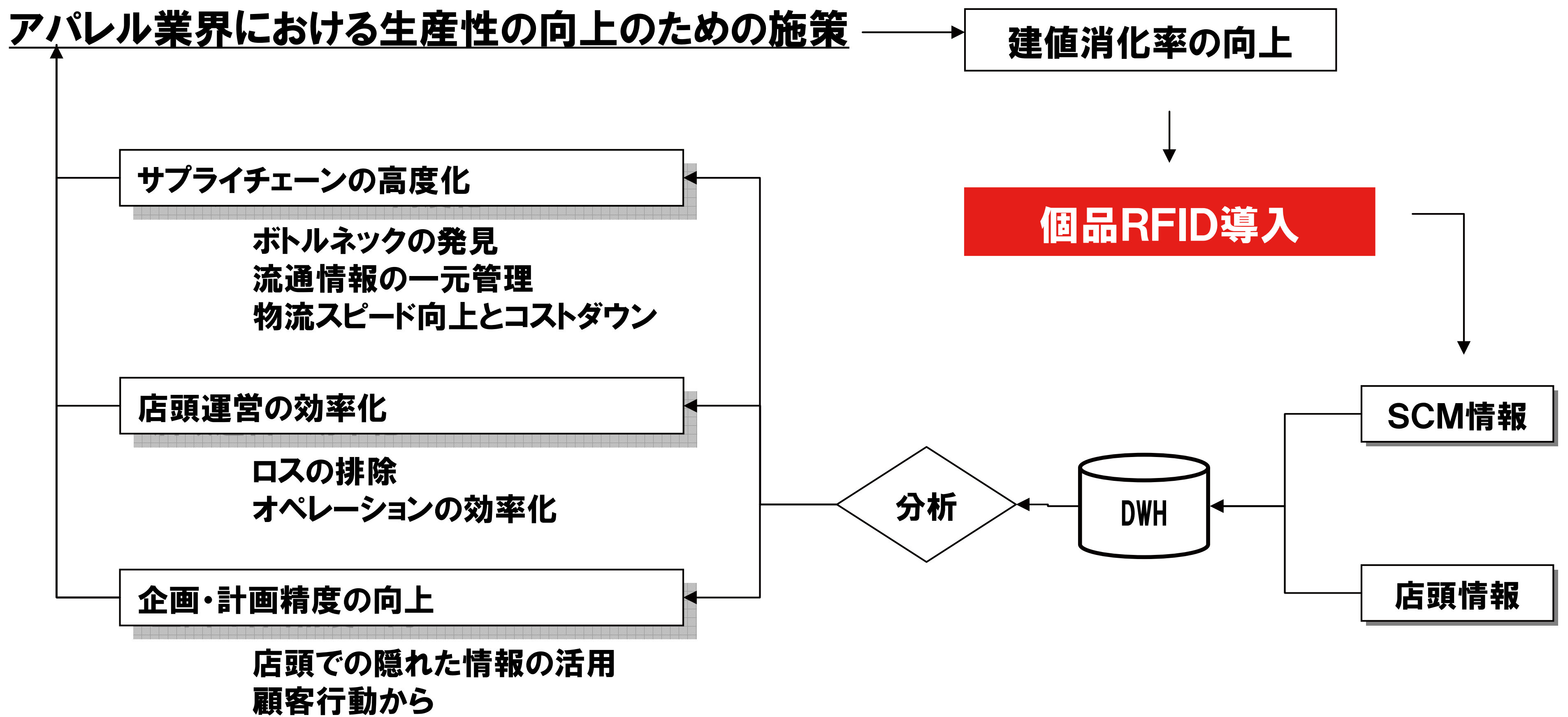
店舗業務の効率化に加え、商品を手に取ったといった顧客の購買行動の様子を定量的に把握。

③ RFIDによる企画・計画精度の向上

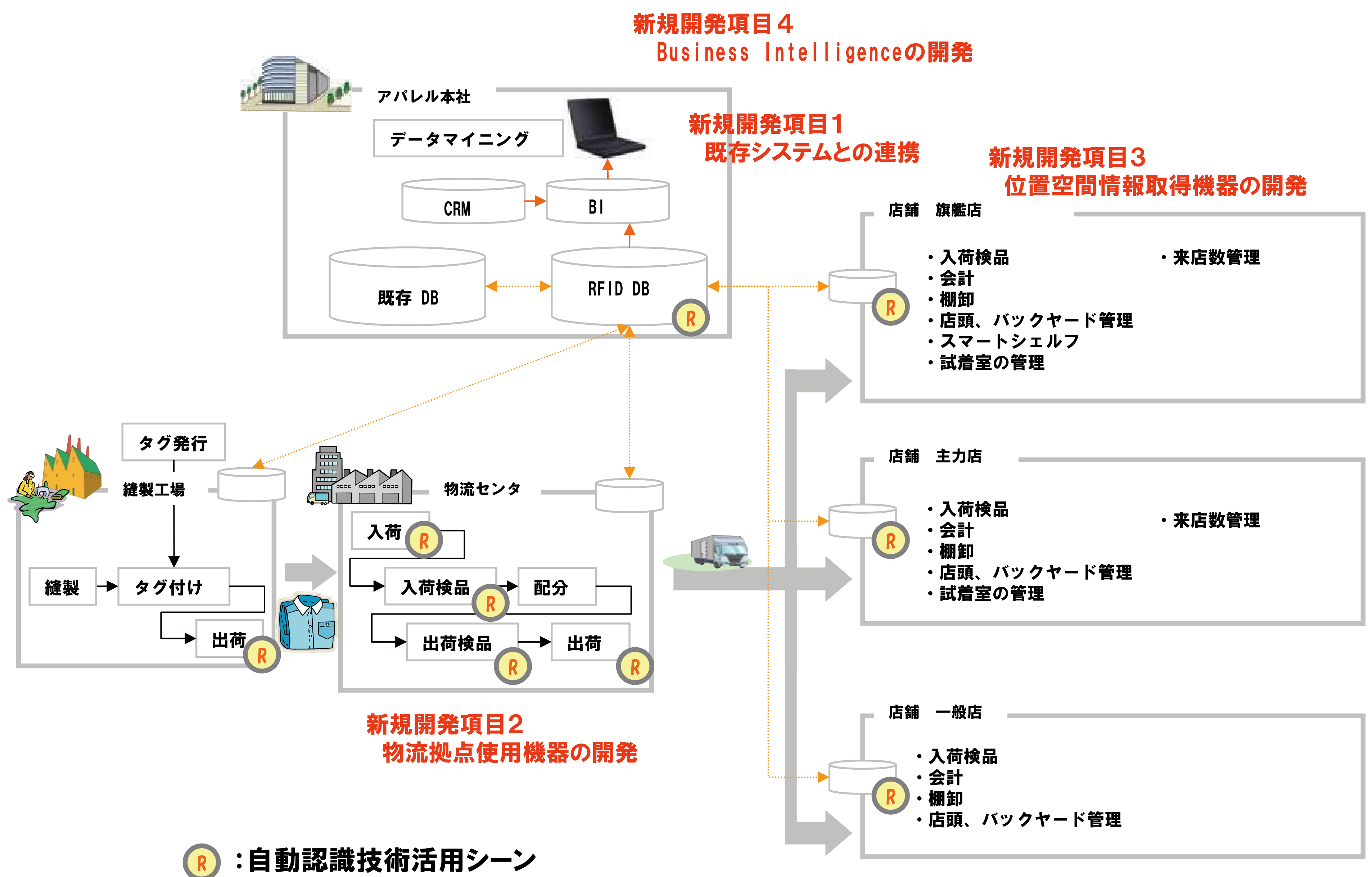
商品のサプライチェーン及び店頭でのトレーサビリティ情報を分析、活用することで各種計画、企画の高度化を実現。

RFIDを活用したアパレル生産性向上モデルについて

実施効果：RFIDの活用による位置空間情報の取得・活用とアパレル生産性向上

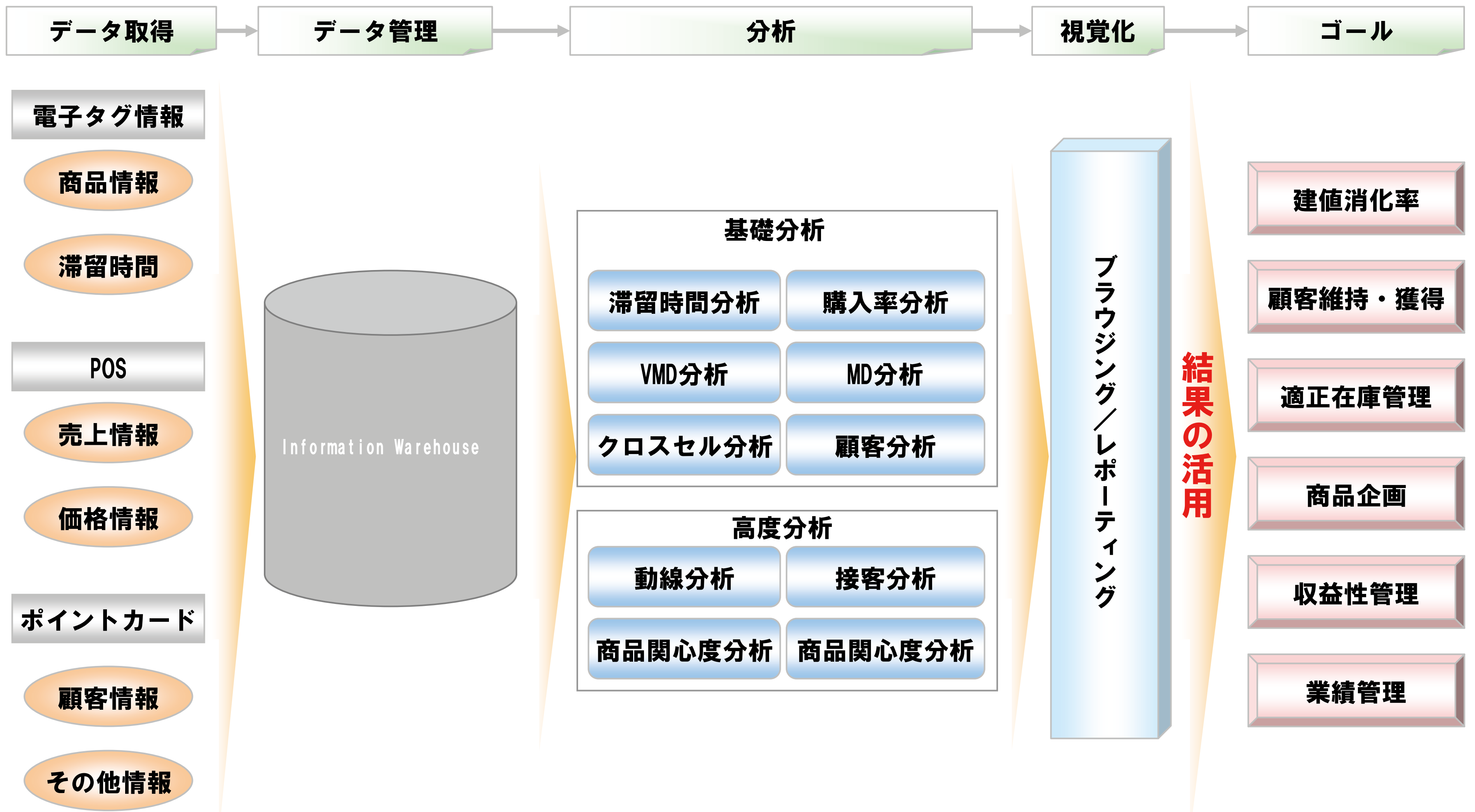


モデル構成：サプライチェーン及び店頭活用イメージ



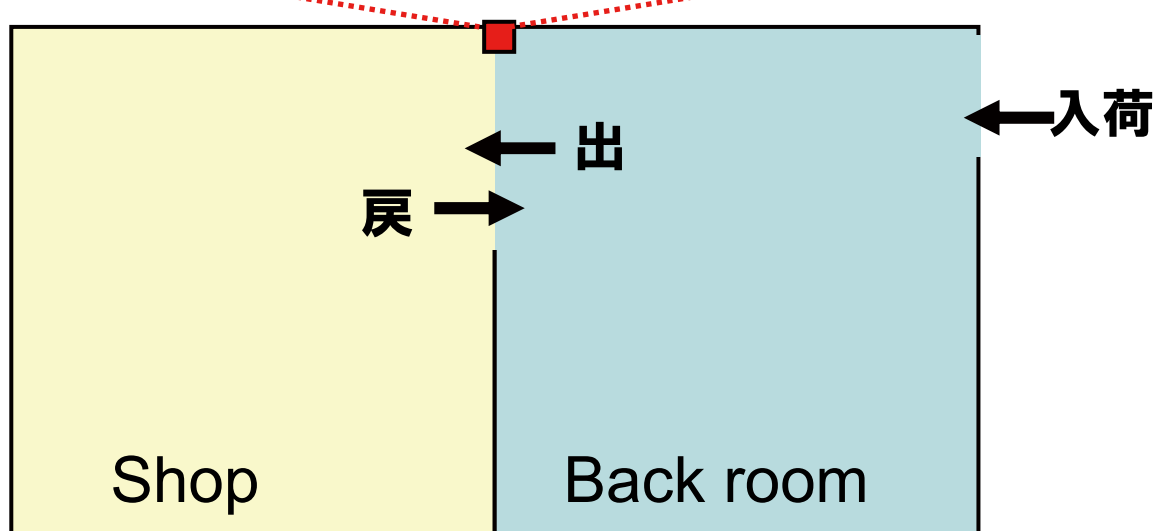
商品トレーサビリティの活用

情報利活用モデル



店頭での商品トレーサビリティ取得機器イメージ

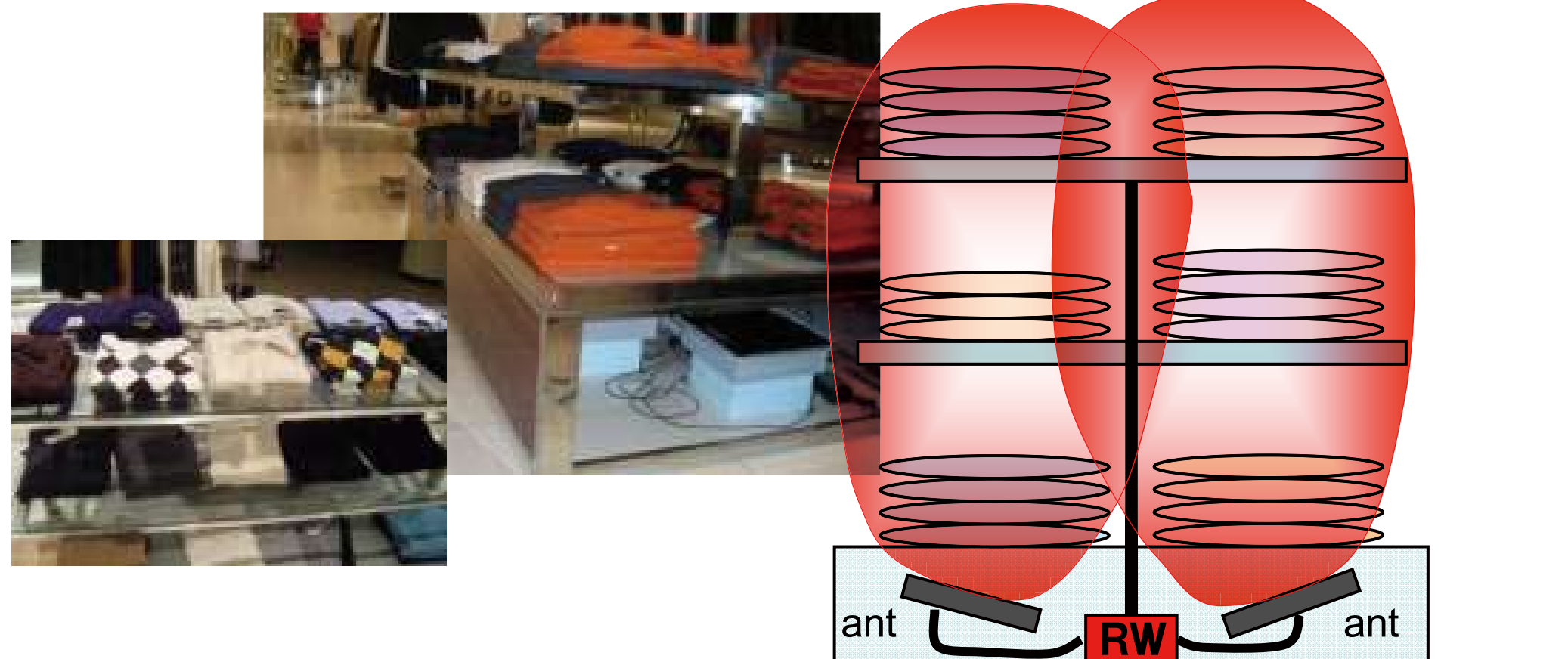
A. In-shop gate



C. POS system



B. Smart Shelf



D. Smart Fitting

